

## 『放射線科と地域とのつながり』 地域と共に

飛騨市民病院 放射線科 小金賢一

### 【背景】

当院のような僻地病院は、医療圏人口が少なく絶えず患者の確保に苦慮している。患者数を維持増加していくためには、住民からの信頼が重要だと考える。地域との結びつきを強めるために行っている活動の一環を報告する。

### 【経過】

平成17年11月に「病院祭」を開催した。「経鼻カメラの展示」や、子供を対象にした「なりきりフォトスタジオ」、放射線科ではCT室やMR室を公開し、スライドを用いて写真の見方や撮影方法などを簡単に分かりやすく説明した。20ほどあった行事のなかで一番好評だったのは、7名の医師による「プチ学会」であった。他の行事と同時進行で行ったにも関わらず、席を離れる人が少なく立ち見が出るほどの盛況ぶりであった。病院祭が好評だった事を考察した結果、地域住民の医療や健康に対する関心度の高さを感じた。そこで病院祭開催の翌年平成18年4月から、地域とともに歩む医療を目指して「出前講座」なるものを考え開催している。住民からの要望に応じて、今一番の話題や病気、設備等について話しをする。講演終了後は、あらゆる内容の質問や意見を受け付けている。そのなかには予期しなかったような貴重な意見があり、これからの病院づくりに大いに役立っている。またアンケートをお願いし、今後の病院運営に活用している。

### 【今後の課題】

神岡は高齢者が病院を選択することが難しい立地条件にある。出前講座を継続していく中で、住民からの意見を拾い上げ、その要望に応えていくことが当院の役割だと考える。

### 【結語】

出前講座は、地域に出向き各種医療情報を提供することで、住民の皆様と語り合い生の声が聞く事のできる貴重な場となっている。これからも出前講座を継続し、そこで得られた情報を生かしながら地域のなかに溶け込んだ病院づくりを目指していきたい。



「出前講座」  
地区公民館にて